

食と緑の

西三河地域レポート2024

ー 食と緑が支える豊かな「あいち」をめざして ー

(2023年度の実績報告)



2024年9月



目 次

1 食と緑の西三河地域レポート作成の趣旨	1
2 重点推進事項の取組状況	2
(1) 農業の担い手の確保・育成	2
(2) 産地戦略による農業生産力パワーアップ	3
(3) 地域営農と農業生産基盤整備の推進	4
(4) 資源を生かす林業の実現	5
(5) 持続可能で活力ある水産業の実現	6
(6) 農山漁村の防災・減災対策の推進	7
3 「食と緑の基本計画 2025 西三河地域重点推進プラン」の取組目標に対する進捗状況	9
○ 地域トピックス	
(1) スマート農業の実証プロジェクトの実施	14
(2) 水産試験場が開発したうなぎのブランド名とブランドマークを決定	15
(3) 令和5年6月の大雨により被災した施設等の復旧	16

表紙 写真の説明



小麦収穫作業(安城市)



たん水防除事業 菱池地区(幸田町)



あいちのうなぎ(西尾市)



あいち伐木競技大会の状況
(最優秀賞受賞者:岡崎森林組合職員)

1 食と緑の西三河地域レポート作成の趣旨

愛知県は、将来にわたる安全で良質な食料等の安定的な供給の確保とその適切な消費及び利用、農地や森林等の有する多面的機能の発揮による安全で良好な生活環境の確保を基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を2004年に施行しました。

この条例に基づき、食と緑に関する施策の基本的方針として、2005年に「食と緑の基本計画」を策定して以来、5年ごとに見直しを行い、現在は第4期目の計画となる「食と緑の基本計画2025」（以下「基本計画」という。）を2020年12月に策定・公表しました。

西三河農林水産事務所では、この基本計画のめざす姿の実現に向け、西三河地域の特徴と課題を踏まえた具体性の高い実行計画として、西三河地域重点推進プラン（以下「プラン」という。）を2021年3月に策定し、基本計画の推進とともに地域として重点的に推進しています。

この食と緑の西三河地域レポートは、プランの重点推進事項を的確に推進するため、プランの進捗管理の一環として、2023年度に実施した主な取組の内容や地域の特徴的な取組事例を取りまとめたものです。

「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」の基本理念

- 将来にわたって安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること。
- 将来にわたって森林等の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な県民の生活環境が確保されること。



2 重点推進事項の取組状況

重点推進事項1: 農業の担い手の確保・育成

地域農業の将来を支える新規就農希望者を始めとした意欲ある人材の確保と育成に取り組みました。

また、女性農業者の経営参画の促進や、家族経営協定の締結に取り組みました。

取組内容①

農起業支援ステーション(愛知県立農業大学校に設置)、各市町やJAと連携し、管内で就農を希望する者(個人39名、企業3社)の相談に対し、研修受講、就農準備、就農計画の作成を支援しました。また、新規就農者育成総合対策の就農準備資金等受給者の研修状況の確認を行いました。さらに、新規就農者に対して、基礎的な技術・経営能力の習得・向上のため、集合研修「NBAセミナー」を開催し、経営管理の基礎となる農業簿記の使いみちについて習得を図りました。

これらにより、西三河地域の農業の将来を担う就農希望者・新規就農者の確保・育成に取り組み、新規就農は40名となりました。



NBA セミナーの様子



研修状況確認の様子

取組内容②

若手女性農業者を対象に「西三河女性講座」を開催し、延べ22名が参加しました。講座では、SNSを活用した情報発信やマーケティング手法の習得支援及び先輩農業者から経営の中での女性の役割について学ぶ機会を設けました。さらに、個別指導により、生産、労務、財務等を担い、経営へ参画する女性農業者が増加しました。

また、農業における家族一人一人の意欲や能力を十分発揮させ、役割分担を明確にするため、家族経営協定の締結を進めました。その結果、16戸が家族経営協定を締結(新規11戸、再締結5戸)し、締結農家数は288戸となりました。



女性講座(SNS 研修)



女性講座(先進農家視察)

重点推進事項2:産地戦略による農業生産力パワーアップ

生産者、農協、市町等の産地関係者からなる産地活性化プロジェクトチーム（以下、「PT」という。）に参画し、産地戦略※の達成へ向けて、施設整備や担い手確保の取組などへの支援を行いました。

取組内容①

PTでは、新規就農者の確保・育成を大きな柱として取り組んでいます。

JAあいち三河「いちご」産地活性化プロジェクトチーム（岡崎市・幸田町）の「いちご塾」（令和元年～）、JA西三河いちご産地振興委員会（西尾市）の「いちごスクール」（令和元年～）JAあいち中央「なし」産地活性化プロジェクトチーム（安城市）の「梨塾」（令和5年～）などの取組があり、これら取組に対して助言や補助事業の計画策定支援などを行いました。

充実した研修制度により、新規就農者の中には、産地でトップクラスの単収を誇る生産者も現れています。



JAあいち中央「梨塾」研修



JAあいち三河「いちご塾」研修

取組内容②

産地戦略の達成に向け、県独自の補助制度「あいち型産地パワーアップ事業」や、国の補助制度「産地生産基盤パワーアップ事業」を活用し、栽培施設の整備や高機能な農業機械の導入などを支援しました。

令和5年度は、いちご・きゅうりの栽培施設（岡崎市、幸田町、安城市、西尾市）、ぶどうの雨よけハウス（岡崎市）、環境モニタリング装置（いちご、西尾市）など5産地、21件の事業計画について支援を行いました。



「あいち型産地パワーアップ事業」
を活用して整備したきゅうり栽培施設

※産地戦略:生産力の向上のため、産地・品目ごとに、「人」、「農地」、「生産技術」、「施設等」の観点から産地のめざす姿について取りまとめたもの

重点推進事項3: 地域営農と農業生産基盤整備の推進

稲・麦・大豆の新品種導入やスマート農業の推進などによる生産性の向上と共に、担い手農家への農地集積・集約化や農地の大区画化、汎用化により、生産コストの削減と持続的な営農体制の構築を推進しました。また、農地や農業用施設の機能を維持するため、老朽化対策（更新整備）・長寿命化対策も併せて行いました。

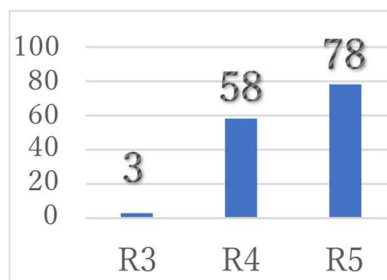
取組内容①

小麦「きぬあかり」、「ゆめあかり」の品質及び収量の安定や、大豆の増収に向けた栽培技術の向上に取り組みました。特に小麦「ゆめあかり」については、実需から求められる高タンパク質含量を達成するための施肥試験、ドローンを用いた追肥試験を西尾市で行いました。

農業総合試験場が育成し、夏季高温でも外観品質が低下しにくく、病虫害抵抗性を有した水稻「愛知 135 号」が県の奨励品種（県として普及すべき優良な品種）になりました。これまでの試験栽培や関心のある農家が栽培する中で上記特性が評価され、栽培面積は昨年度の 58ha から本年度産では 78ha に拡大しました。



ドローンを用いた追肥試験



管内の愛知 135 号栽培面積推移 (ha)

取組内容②

岡崎市と安城市にまたがる 143 ヘクタールの農地を対象として、大区画化や用水施設のパイプライン化を行う「矢作中部地区」の工事が令和 5 年度に完了しました。

矢作中部地区では、農業生産基盤の整備を契機として担い手農家への農地集積が進み、集積率※は事業着手前に比べ、30.7% (55.5%→86.2%) 上昇し、生産性の高い農地で効率的な営農が行えるようになりました。

※集積率: 地区面積に占める担い手農家の経営面積の割合



工事施工前の状況



畦畔が除かれ区画が拡大した農地

重点推進事項4:資源を生かす林業の実現

資源を生かす林業を実現するためには、持続可能性と安全な伐木技術を持った従事者育成を重視した森林経営が重要です。持続可能な森林経営のために、循環型林業*の意義や補助制度の普及に努め、安全な伐木技術を持った従事者育成に努めました。

取組内容①

持続可能な森林経営のために重要である循環型林業について、森林所有者らに仕組み（伐採・植栽だけでなく、獣害防止施設の設置や下刈り・除伐等の保育作業までを含むことなど）や補助制度などについて地元会合に併せて説明会を実施しました。また獣害防止施設の点検を行い、その結果を関係者に周知するなど、循環型林業の普及啓発に努めました。

※ 循環型林業とは

森林にある立木を木材として伐って使った後、再び植え育て、森林を世代交代させて将来の木材資源を確保しながら、多様な森林を維持し保全していこうというもので、長期的な視点に立った林業本来の役割を示しています。



循環型林業説明会



獣害防止施設点検状況

取組内容②

林業技術や安全作業意識の向上のため、林業経営体従事者などを対象に伐採現場での安全点検の実施や安全講習会・研修への参加を促しています。

令和5年10月18日（水）に東栄ドーム（東栄町）にて、愛知県で初となる「あいち伐木競技会 2023」開催に伴い、管内の林業経営体にも参加を促し、その参加者の中から岡崎森林組合の大井宣志^{のぶゆき}さんが見事初代チャンピオン（最優秀賞）となりました。

（表紙に写真掲載）



安全点検状況



「あいち伐木競技会 2023」の様子

重点推進事項5:持続可能で活力ある水産業の実現

「魚食の伝道師」と銘打って漁業士や職員を小学校に派遣し、地元の水産業の紹介や魚介類の展示を行いました。また、漁協の運営する魚介類直販施設の屋根施設整備を支援しました。

取組内容①

県では子供たちに水産業や魚介類を身近に感じてもらい、水産物の消費拡大を図ることを目的に漁業士や職員を小学校に派遣する事業を実施しています。令和5年度は、西三河地区の小学校4校において合計303人の小学生を対象に西三河の水産業や魚介類を紹介する課外授業を実施しました。

授業では、西三河の水産業の特色を紹介する座学や漁業士による漁具を使ったアサリ漁業の実演、西三河特産のうなぎ、かれいやあじ等の海産魚にも実際に触れてもらうコーナーを設けて、水産業や魚介類に対する理解を深めました。



座学の風景



魚介類に触れる子供たち

取組内容②

西三河漁協が運営する「一色さかな村」は、水揚げされたばかりの新鮮な水産物を扱う人気の水産物直販施設で、県内各地から訪れた多く利用客で連日早朝から賑っています。

「一色さかな村」は、4棟の施設内に入居する仲買人が市場で競り落とした魚介類を一般向けに販売しています。利用客は4棟の間を行き来し、お目当ての水産物を購入していきますが、棟間には屋根施設がなく、雨や太陽光が店舗内に入り込むなどの衛生管理上の課題を抱えていました。そこで、漁協では、県の補助金を活用して屋根施設を整備し、衛生管理の向上を図るとともに利用客の利便性の向上を図りました。



屋根整備前の様子



整備された屋根施設

重点推進事項6: 農山漁村の防災・減災対策の推進

排水能力が不足する排水機場の更新工事や、大規模地震に対する安全性や豪雨耐性が不足する農業用ため池の決壊を防ぐための対策工事を進めました。

森林において、荒廃するおそれのある溪流には治山ダムや流路工など、山腹崩壊のおそれのある斜面には土留工や法枠工などの治山施設を設置し、山地災害に対する防災機能の向上を図りました。

取組内容①

老朽化により排水能力が不足していた幸田町内の菱池排水機場では、降雨による農地等のたん水被害を防止するため、排水機場の更新工事に取り組み、排水能力を増強した新たな機場の供用を開始することができました。

新たな機場は、建屋や下部工等の構造物の耐震性能も現行の基準を満たす構造となり、大規模地震が発生した場合の安全性も確保されました。



菱池排水機場（全景）



菱池排水機場（ポンプ設備）

取組内容②

大規模地震や豪雨により決壊の恐れがあった西尾市内の桑畑東池では、地震対策として堤体の補強を行うとともに、豪雨対策として洪水吐の能力増強を行いました。

このほか、管内の3池において地震・豪雨対策が完了し、ため池の防災・減災能力が大きく向上しました。



桑畑東池（西尾市）



柿田池（幸田町）

取組内容③

岡崎市淡渕町地内の山間部の溪流において、溪岸侵食や不安定土石の堆積があり、下流の淡渕町集落を始め、年間約1万人が訪れる「男川やな」、主要地方道岡崎作手清岳線への被害が発生するおそれがありました。このため、山地災害や土石流を抑止することを目的として治山ダム工を施工しました。

これにより荒廃溪流が安定化され、土砂の流出を抑制することができ、山地災害に対する防災機能の向上を図りました。



溪流の荒廃状況



治山ダム工（コンクリート）

取組内容④

岡崎市恵田町字宮前地内の人家裏の山腹斜面において、表層土の侵食・崩落があり、人家2戸への被害が発生するおそれがありました。このため、山腹の拡大崩壊を防ぐことを目的として法枠工（簡易法枠工）を施工しました。

これにより山腹が安定化され、人家2戸の安全が確保され、近年多発する豪雨災害に対する防災機能の向上を図りました。



山腹の荒廃状況



法枠工（簡易法枠工）

3「食と緑の基本計画 2025 西三河地域重点推進プラン」の取組目標に対する進捗状況

(1) 農業の担い手の確保・育成

ア 新規就農者の確保

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	33人/年 うちJAあいち三河、JA西三河いちご産地における 新規就農者の確保・育成 各3人/年						
実績値	30	41	40				
うちJA あいち三河	10(3)	13(5)	18(4)				(うちいちご)
うちJA 西三河	11(4)	18(10)	9(5)				(うちいちご)

イ 家族経営協定締結数

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	285 (30増/5年)						2020年 255
実績値	268	277	288				

(2) 産地戦略による農業生産力パワーアップ

ア 戦略を推進する補助事業の活用

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2件/年		4産地/年				
実績値	8(28)	6(14)	5(21)				産地(件)

イ 新たな産地戦略の策定・実行

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2産地/5年						
実績値	2	3(1)	3(0)				(単年度)

ウ あいち型植物工場の導入面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	10%増加／5年						2020年 38ha/168ha
実績値	0.4%増	2.3%増	4.5%増				

エ 畜産クラスター事業に参画する取組主体

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2戸以上／5年						
実績値	0	1	0				

(3) 地域営農と農業生産基盤整備の推進

ア 担い手への農地集積面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	11,236ha						2020年 9,322ha
実績値	9,537	9,572	9,675				

イー1 新品種の普及一稲「ミネアサヒ SBL」

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	250ha						
実績値	261	295	316				

イー2 新品種の普及—稲「愛ひとつば」・「愛知135号」等

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	150ha						
実績値	61	177	236				

イー3 新品種の普及—小麦「ゆめあかり」

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	1,000ha		700ha				
実績値	899	932	679				

ウ 大豆の単収

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	20%増						2016～20の平均117.6kg/10a
実績値	(143.3) 22%増	(135.4) 15%増	(111.0) 6%減				2021～24は年度の単収 2025は4年間の平均値で評価

エ 農業生産基盤整備（新規）

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	140ha/5年						2020年整備済面積11,919ha
実績値	0	0	96				

オ 農業生産基盤整備（再整備）

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	3,366ha/5年						
実績値	132	864 (732)	2,853 (1,989)				(単年度分)

(4) 資源を生かす林業の実現

ア 管内木材生産量

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	12,000 m ³ /年						2016～19年の平均 10,855 m ³ /年
実績値	13,409	12,780	13,303				

*年次集計のため、実績値は、各年度 12 月末現在の数値

イ 森林経営計画新規策定面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	700ha/5 年						
実績値	335.7	491.8 (156.1)	592.6 (100.8)				(単年度分)

ウ 木材生産に寄与する搬出間伐面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	57ha/年						2016～19年の平均 51.5ha/年
実績値	54.3	59.4	47.0				

(5) 持続可能で活力ある水産業の実現

ア 西三河地区の海面漁業及び海面養殖業生産量

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2 万トンの維持						2016～18 年の平均 19,922 トン
実績値	10,607	10,173	12,029				

イ 干潟・浅場及び貝類増殖場造成による漁場生産力の強化

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	5 か所以上/5 年		10 か所以上/5 年				
実績値	3	6 (3)	8 (2)				(単年度分)

ウ 漁業者によるあさり等の海産種苗の放流

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	7 種/年						
実績値	7	7	7				

(6) 農山漁村の防災・減災対策の推進

ア 農業用排水機場、ため池等の更新・整備

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	受益面積 1,147ha/5 年 内訳 基幹的排水機場 11 か所 防災重点ため池 10 か所						
実績値	132	489 (357)	590 (101)				(単年度分)
基幹的排水機場	1	4 (3)	5 (1)				
防災重点ため池	3	4 (1)	9 (5)				

イ 治山施設の整備による防災機能の向上面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	200ha/5 年						
実績値	40.2	83.3 (43.1)	115.8 (32.5)				(単年度分)

地域トピックス

～スマート農業の実証プロジェクトに取り組んでいます～

JA 西三河いちご部会は県内トップレベルのイチゴ産地であり、新規就農者確保の取組である「いちごスクール」により部会員が増加しています。一方、農業を取り巻く環境は厳しく、燃料価格の高騰、輸送、労力確保など課題が多くあります。

これらの課題を解決するために、令和5年度から以下の4つをテーマに事業に取り組んでいます。

○取組事項

- ・局所環境制御（ダクトによる局所環境制御、群落内物理環境計測等）
- ・局所環境制御（高効率ヒートポンプ）
- ・出荷予測を活用した販売戦略
- ・スマート選果システム

○目標

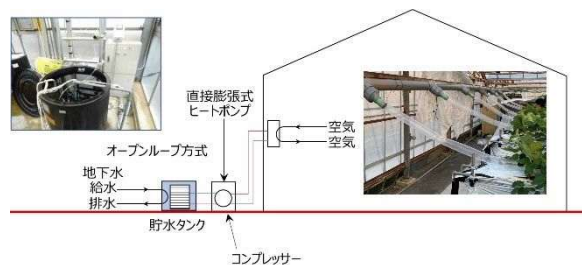
- ・局所環境制御と高効率なヒートポンプによる燃油使用量 25%削減
- ・選果機などによりいちごパック詰め作業の労働時間を 20%削減
- ・経常収支 5%改善



ダクトによる局所環境制御



群落内物理環境計測



高効率ヒートポンプ



出荷予測を活用した販売戦略



スマート選果システム

地域トピックス

～水産試験場が開発したうなぎのブランド名とブランドマークを決定しました～

愛知県は全国2位（2021年シェア26%）の養殖ウナギの産地で、このうち西尾市が8割以上を占めています。養殖には天然のウナギ稚魚（しらすうなぎ）を育てますが、近年、漁獲量が大きく減少していることから、限りある天然資源を有効利用するために、製品サイズの大型化が求められています。しかし、ウナギは養殖するとほとんど雄になり、雄は通常の出荷サイズ（体重200～250g）より大きく育てると身が硬くなることが課題でした。そこで、愛知県水産試験場は一色うなぎ漁協などと協力して雌を量産する技術を開発し、「大きくて、やわらかくて、おいしいうなぎ」を作ることに成功しました。この成果をPRするため、公募により、2024年1月12日にブランド名とブランドマークを決定しました。

○ブランド名、ブランドマークについて

ブランド名は「葵（あおい）うなぎ」で、これは「“あ” いちの、“お” おきな、“おい” しいうなぎ」の頭文字と家康公にあやかっています。

ブランドマークは愛知県の“愛”からイメージしたハートをうなぎがかたどっています。

○葵（あおい）うなぎの特徴

「葵うなぎ」は大きく成長しても皮が柔らかく身がふっくらとしており、1匹のしらすうなぎを大きく育てて出荷することが可能なため、持続可能なうなぎ養殖につながることを期待されています。



ブランドマーク



葵うなぎ（手前）と通常の養殖うなぎ（奥）の蒲焼き

地域トピックス

～令和5年6月の大雨により被災した施設等の復旧を進めています～

令和5年6月2日の大雨により、県内で、農地・農業用施設、山地、林道、農業共同利用施設及び農林水産物等に甚大な被害が発生しました。

被災施設等の復旧に向け、県・市・町の単独事業等に加え、県は6月補正予算で国の災害復旧事業による対応を行うとともに、9月補正予算で被災した農業者が営農を再建・継続できるよう、農業用機械の修繕や農業資材の購入等への支援を行うなどしました。

なお、国は「令和5年5月28日から7月20日までの間の豪雨及び暴風雨による災害」を激甚災害に指定し、対象となる施設等に対し特別の財政援助を実施しています。

西三河農林水産事務所では、今後も、被災施設等の復旧を進めるとともに、農作物等の安定的な生産と供給に向け、農林水産業者等への支援をしてまいります。

○西三河地域の被害の状況（被害力所・件・ha（R5.7.19確定値））

- ・農地 86 カ所・農業用施設 143 カ所
- ・林道 3 カ所
- ・山腹崩壊 5 カ所・治山施設 1 カ所
- ・水産業 3 件
- ・農業被害 施設 43 件・農作物 144ha



農地の法面崩壊（幸田町）



農業共同利用施設の冠水（岡崎市）



山腹崩壊（幸田町）



農作物の冠水（幸田町）



食と緑の西三河地域レポート 2 0 2 4

—食と緑が支える豊かな「あいち」をめざして—

2024年9月発行

愛知県西三河農林水産事務所
岡崎市明大寺本町1-4
電 話 0564-23-1211 内線 2436(農政課)
電子メール nishimikawa-nourin@pref.aichi.lg.jp



西三河農林水産事務所